

COMMUNICATION

Pickup社員



藤田 晃大さん 野村 香菜さん



CONTENTS

- ◆エコフェス in 中特グループ
- ◆お客様紹介
- ◆ダチョウの卵がハウスダストをやっつけます！
- ◆この人に聞く！ / 新入社員紹介
- ◆廃棄物法令レポート
- ◆研修旅行 / トピックス

副代表あいさつ

中特グループ副代表
橋本 ふくみ



みなさん、こんにちは！
毎日ご苦勞様です。今日は5月23日、とっても清々しい良い天気です。いつものように朝一番、全員での気合の入ったラジオ体操、理念唱和、職場の教養の輪読を終え、今、現場部隊は全員出勤して行きました。

営業部隊はお客様と電話で打ち合わせ、総務部隊からは何やら面白い笑い声が聞こえてきます。え、また太ったって？みんなそろそろダイエット始めなきゃね！
こんな感じで私たちの一日がスタートしています。

務である、し尿収集運搬と浄化槽の維持管理業務だけで十分やっていく会社でした。

私は、毎日振替伝票を書いたり、帳簿を付けたり、時には未納のお客様のところへ集金をしに足を運んだりしていました。経理のことも初心者でしたので、夜間は簿記学校に通ったりもして、それなりに努力はしていたように思います。

やがて、のんびりムードの時代にも変化が起きて来ました。国策により急速に下水道化が進み始めました。道路はいつも、様々な場所で下水道管の埋設工事が行われました。その結果、今というHOS部門のお客様はみるみるうちに減少し、売上も急降下していききました。

一方で、下水道を埋設する水道業者は多忙を極めていました。そんな折に後継者がいないという老夫婦から水道会社を買って欲しいという申し出がありました。平成元年、中特工事の始まりです。その後中特工事は時代と共に変化して、産廃処理会社となりライフが誕生したの

です。

それから4年後の平成5年には、藤井興業が仲間入りしました。この当時のことはよく覚えています。

旧新南陽市で同業を営む藤井様より、今度もまた後継者がいないとの理由で会社を買って欲しいと父が懇願されたのです。旧新南陽市には同業者が他に3社あるじゃないですかと父は言いましたが、藤井さんは頑なに吉本さんでなきゃダメなんだと言われ、父がこれを引き受けたのが始まりです。

時は前後しますが、この少し前に、私たちは認識の甘さにより、ある事故を起こしてしまいました。会長がすぐさま走り回り、ありとあらゆる手を尽くしましたが、世の中そんなに甘くはありません。厳しい処罰と巨額の売上損失はもろろんのこと、一番大切な信頼を一瞬にして失ってしまったのです。

この創業以来最悪な出来事を機に、会長は変革宣言を掲げました。もう二度と同じ失敗を繰り返してはならない。平成13年にISO14001

私が社長という役職を頂いたのは、およそ8年前になります。振り返るのはまだ早いのですが、当時に比べると随分会社の雰囲気が変わったなあと実感しています。

私は、社長になった初めの5年間は内部統制を徹底的に行いました。まずは、私たちのビジョンを語り、それを実現するための組織体制の見直し、役割責任の明確化、部門ごとの目標に基づいた社員一人ひとりの個人目標の設定などなど。

そして、ここ3年間は部下を信頼し留守を任せ、私たちの合言葉である「現実をみよう、外をみよう、先をみよう」を存分にさせて頂いております。

思えば3年間、日本国内はもとより、ブータン、ベトナム、ミャンマー、インドネシア、マレーシア、韓国、中国、そして、つい最近では環境先進国であるドイツ、ノルウェーへ視察へ行くことが出来ました。

「外を観る」ことで、少しずつではありますが、鳥瞰的に物事を捉えることが出来るようになった気がして

の取得を宣言したのです。会長の決意は相当のものでした。私は、その頃まだ経営に関与していませんでしたが、会長の気迫は痛いほど伝わってきたのを覚えています。

それからのことは、ここにいらっしやる大半の皆さんもご存じでしょう。それまで私たちは何をやってても続きませんでした。面倒くさいことは聞かなかったことにしたり、責任は自分以外の誰かのせいにして終わりにしたり。しかし、ISOの取得はこれらのことを全て実行し継続していかなければなりません。私たちにとって苦手なことばかりです。会長もやると宣言したものの、内心は不安でいっぱいだったと当時を振り返っています。

それから9年経ちました。今年6月に3度目の更新をクリアしています。全ては皆さんの努力の賜物、そして人の可能性は無限であると実感しています。

さて、創業者である父の話を少しさせてください。父は平成11年3月1日に他界し12年が経ちました。生

います。

そんなことを考えながら、溜まっていたPCのデータを整理していたら、社長就任5年後の事業発展計画発表会で社員の皆さんに発表した「私の原点」が出てきました。

当時はまだ入社していなかった社員の方、またお客様、お取引先様にこの場をお借りして、恥ずかしながらお見せしたいと思います。

私の原点

私は、平成19年1月に、会長より指名され、その年の8月1日に社長に就任しました。



私は、昭和62年の春に経理担当者として中国特殊へ入社しました。

当時はまだ下水道もそれほど普及しておらず、社内はのんびりムードが漂っていて、市役所からの委託業

きていれば70歳、まだまだきつと現役だったと思います。今となつては、あれを聞けばよかった、これが聞きたかったと後悔ばかりの毎日です。しかし、私が社長に就任し、改めて会長や社外の方とお話をさせて頂く中でわかってきたこともありますので、これを機に皆さんにもお知らせしておきます。

創業者である父は、柔道有段者で徳山高校に推薦されましたが、貧しい家庭環境により進学を断念しました。父の父である私の祖父は、誰もがやりがたらない仕事をしなければ食べていけないとの理由からくみ取り業務を勧めたと言います。父は5人兄弟の長男であり、父は絶対的な存在であつたためノーと言えなかつたそうです。当時はまだ今のようにならなく桶で担いでいたそうです。中学校を卒業したばかりの父は何を思ったのでしょうか。

それから5年後になりますが、市役所の委託開始に先立ち、10人ほどの個人業者がまとめられることになりました。まだ20歳過ぎの一番若造

第1回 エコフェス in 中特グループ開催

5月31日（土）に中特グループ本社にて「エコフェス in 中特グループ」を初開催しました。
この「エコフェス」は5月30日（ごみゼロの日）や6月が環境月間ということもあり、地域の皆様にイベントで楽しみながら環境について考えていただくきっかけになればという思いから開催いたしました。当日は快晴で多くのお客様にご来場いただきました。



ミニ緑日では社員手作りのヨーヨー釣り・射的・輪投げをおこないました。



リサイクル工作ではペットボトルを使って風車やプレスレット・キーホルダー作成を体験していただきました。



中特グループの特殊車両の展示やダチョウの卵の展示、缶プレスの展示もおこないました。



藤田社員によるジャグリングショー！子供たちのジャグリング体験も好評でした。



当日資源物を5つ以上お持ち頂いたお客様には粗品をプレゼントさせていただきました。
興味をもってご来場頂いた皆様、有難うございました。



第一回「エコフェス in 中特グループ」にエコライフPJのメンバーとして参加しました。当日は絶好のフェス日和の炎天下。計画・準備に数カ月もかけた一大イベントで正直本当にお客様が来てくださるのか大変心配でしたが、約130名もの方々が来場されました。私達にとって初めてのイベント主催でしたが、地域のみなさまに私達の会社のことや環境への取り組みについて知っていただくきっかけづくりができたのではないかと思います。来年もまた今年の反省点を活かして、さらに楽しんで頂けるようレベルアップします。

エコライフPJ サブリーダー 和田 総志

の父が社長に就任することになったそうです。これが中国特殊の前身である徳山清掃社の始まりです。その後、昭和41年2月に株式会社となりました。

私が社長就任直後に、市役所にごあいさつに伺ったとき、担当の方に昔話を聞くことができました。その方は、「改めて市役所に保存してある記録を見たら、当時、ゴミ回収の業者を募ったところ、誰も手を挙げてくれなかった。唯一手を挙げて私がやりましようと言って下さったのが吉本さんだったとありまして。市役所から車を一台貸し出してスタートしたそうですよ。」と教えて下さいました。これが吉本興業、当時の徳山清掃センターの始まりです。社長は現吉本会長です。私は生まれた直後から母が運転する作業車の助手席で育ったと聞いています。

さて、当社の事業承継のストーリーは、父の次に兄、兄の次は夫に決まっていた。皆さんもそのように思っていたでしょう。しかし、それぞれの事情により実現せず、まさかの圏外。私が引き継ぐことになりました。皆さんも驚かれたと思いますが、当の本人である私が一番驚いていたと思います。



指名されて就任するまでの約半年は、本当に悩み苦しみました。何しろ何も準備してないですし、そのつもりで生きていましてしたから。例えるならまるで、濃霧がかかって対岸が見えないボロボロのつり橋を渡るようでした。私は経営のことはもとより、事務所以外のことは何も知らなかったのです。そんな時、ある方から自分が感じている不安を箇条書きにすることを勧められました。私は、とにかく書いて書いて書きまくりました。そして、それが本当にどうにもならないことなのかを考えました。そして結論は、大半がどう

かなる、でした。それからは、前進するのみにスイッチが入ったのです。それから約5年経過しました。私は今、社長業への使命感に燃えています。私がやらずして一体誰がやるというほどにです。恐れていた向こう岸は近付けば見えてきました。見えたらどうにかしなくてははいけません。

私は、会長のような大船は持っていません。社員である皆さんを乗せて荒波をつき進めるほどの大きな船を持っています。ですから、皆さんにお願いしたいのです。私はグループの副代表として、代表に代わり皆様方にごへ向かって進んだら良いのかを示すため、ビジョンという大きな旗を掲げています。ですから、全員で同じ方向に向かって全力でオールを漕いで頂きたいのです。そうすれば、私たちが目指す場所へより安全により早く辿りつけるはずですよ。

そして、一日も早く私を指名してくれた会長や、社員の皆さんやお客様が幸せになれる、そんな会社を実現していきたいと思っております。

みなさん、どうぞ協力して下さい。



よくしくお願いいたします。

中国特殊グループ副代表 橋本ふくみ

と、当時はこんなことを言っています。私は、外を覗く度に、夢が広がって仕方ありません。あれもしたい、これもしたい。こんなことが実現出来たらきつとみーんな幸せだろうなあ、と思いながら毎日ワクワクしています。

そんな私に恩師の一人がこんなことを言っていました。

夢を実現する法則、それは

①夢を持つこと

②夢の話を聴いてくれる友を持つこと

③夢を支え続けてくれる仲間を持つこと。

さあ、皆さん、共にワクワクしながら夢の実現を目指そうではありませんか！

ダチョウの卵がアレルギーの原因「ハウスダスト」をやっつけます。

究極の食品リサイクル法で「ミミ」から新規素材を大量生産することに成功しました。

中特グループの株式会社中特ホールディングス（山口県周南市）では現在、下松市東海岸通りの「下松リサイクル工場」でダチョウを飼育し、スーパーや飲食店から廃棄食品（野菜くずなど）を餌として活用した「食品リサイクル」を実施しております。ダチョウが産んだ卵はこれまで、菓子製造店にお願いしてケーキなどに加工してきましたが、今回、ダチョウの卵を活用した新規有用素材の開発に成功いたしましたので報告させていただきます。

具体的には、様々なアレルギー疾患を誘発するとされる「ハウスダスト」に対する抗体をダチョウにより大量作製し、家庭用品へと商品化することに成功した



しました。このダチョウ抗体原料を用いることで、ハウスダスト対策用のスプレー剤、化粧品、空気清浄機フィルター、マスクなどの開発が可能となります。本件は、京都府立大学生命環境科学研究科動物衛生学研究室との産学連携による研究成果であります。京都府立大学（京都市左京区下鴨）では、ダチョウを用いて有用抗体の低コスト大量作製法（従来の4000分の1の低コスト化）の開発に成功し、様々な感染症の防御用素材の開発を行っております。すでに、ダチョウ抗体を用いたマスク（ダチョウ抗体マスク）や空気清浄機が鳥インフルエンザや新型コロナウイルスエンザそして季節性インフルエンザウイルス防御用として販売されております。

ハウスダストとは、室内塵のことで、アレルギーを引き起こす数種類のアレルギーが

京都府立大学・ダチョウ研究グループ

ダチョウを用いて高精度抗体の低コスト大量作製法の開発に成功しました。



診断・治療薬や工業用抗体としても応用可能
私たちの研究室では年間計14kgのダチョウ抗体の作製が可能です。

する抗体を用いれば、アレルギーの予防や症状の緩和を行えると考えました。ハウスダストアレルギーを抗体が包むことにより、人体が「ハウスダストが来た」と認識しなくなるため、アレルギー症状が出なくなると想定されます。

「実施例」

最初に、ダチョウの雌にハウスダストアレルギーを接種します。そうすると約2週間後からダチョウの体内にハウスダストに結合する抗体が産生されはじめます。雌ダチョウの場合、抗体が血液から卵に濃縮移行しますので、産まれた卵にはハウスダストに対する抗体が大量に存在します。私たちが開発した卵黄抗体精製技術を用いて、卵から高純度のハウスダスト抗体を大量に回収し



ます。この抗体を化粧品、スプレー、噴霧剤、空気清浄機用フィルターやマスクに搭載することで、ハウスダストによる種々のアレルギーを予防・抑制します。

結果的に、1個のダチョウ卵の卵黄から2〜4gの抗体が精製され、ハウスダストアレルギーとダニアレルギーに反応することがわかりました。また、この抗体をハウスダストアレルギー浸透濾紙（診断用の円形ディスク）に添加し、アレルギーの人に塗布したところ、非常に興味深い結果を得ました。

ハウスダストアレルギーを染み込ませて乾燥したディスク濾紙にPBS（リン酸緩衝液）、またはダチョウ卵黄抗体（ハウスダストアレルギーを免疫して作製したもの）を添加し、室温で10分間放置しました。その後、ディスク濾紙をハウスダストアレルギーボランティア（ヒト）の下鼻甲介粘膜に付け、5分間放置し、臨床症状（鼻内掻痒感、くしゃみ、水性鼻漏、粘膜腫脹）の有無を観察し、症状別の発現率を算出しました。

結果として、ダチョウ抗体を添加することでハウスダストおよびダニによるアレルギー反応が高率に抑制されました。抗原抗体反応の結果、アレルギーをダチョウ抗体が覆い隠すために、ヒトの体がアレルギーと感知出来なくなるものと考察

ダチョウ抗体のハウスダストアレルギー抑制効果

症状	症状発現率(%)		
	PBSのみ(12人)	ダニアレルギー用ダチョウ抗体添加(10人)	ハウスダスト用抗体添加(12人)
鼻内掻痒感	100	50	25
くしゃみ	92	30	0
水性鼻漏	58	10	0
粘膜腫脹	100	40	25

されます。

ダチョウが産む卵から精製できる抗体は卵1個につき最大約4gになり、最大で約8万枚のマスク分に相当します。個体差はありますが、ダチョウは年間平均で100個ほど産卵しますので、1羽から最大800万枚程のマスクが作製出来ます。

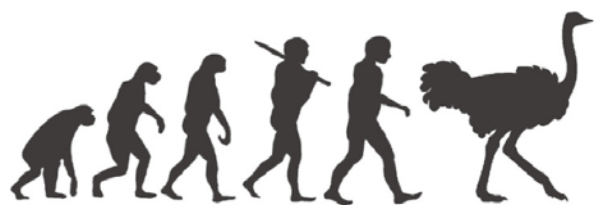
ダチョウ卵黄抗体は哺乳類の抗体作製コストの約4000分の1で済みますし、寿命が約60年と長寿ですので、同じ品質のものを大量に商品化することが出来ます。マウスやウサギを用いる時のように生命を犠牲にして血液から抗体を回収す

るのではなく、ダチョウの場合は単に産まれてくる卵（無精卵）を採取するだけで済みます。一般に抗体はタンパク質で非常にデリケートなものです。ダチョウ抗体は熱に強く、酸・アルカリにも強いことから、マスクやフィルターなどを加工する際の様々な製造ラインにも導入出来ます。

現在、莫大な数の日本人がハウスダストに起因するアレルギー（アトピー、喘息など）で苦しんでおり、その苦痛やストレスによる日本全体の経済的ダメージは大きいとされています。それらの現状を考え、ダチョウ抗体を搭載したハウスダスト対策用スプレー剤が産学連携開発（京都府立大学、オーストリッチファーマ株式会社（京都府精華町）はんなブラザ、ジールコスメティックス株式会社（大阪市）、中特ホールディングス）により誕生いたしました。6月中には県内大手ドラッグストアにて販売を開始いたします。加えて、ハウスダスト対策用の化粧品（ア



商品化例
ダチョウ抗体スプレー
（商品名 Alleprotect）



トピー用）やマスク（気管支喘息やアレルギー性鼻炎対策、さらに空気清浄機も商品化をめざします。ダチョウがアレルギー大国「日本」の救世主となる事を信じております。また、山口県産の研究成果がアジア諸国で活躍出来ることを期待しています。まさに、「ゴミ」から「新規有用素材」の創出です。ダチョウと食品リサイクルのコラボレーションが人類の役に立って下さることを嬉しく思います。少しでも私たちの食品リサイクルとダチョウ研究に興味を持っていただければ幸いです。

Visitor Introduction

～ お客様紹介 ～

医療法人社団生和会

徳山リハビリテーション病院

診療科目 リハビリテーション科・内科
許可病床数 4階建・39室・120床
住所 周南市大字徳山626番地



徳山リハビリテーション病院増築工事

四季折々の花木が美しい万葉の森に隣接。 豊かな自然を感じながらリハビリテーション。

徳山リハビリテーション病院は平成24年4月に開院し、120床全てを回復期リハビリテーション病床としています。

医学的リハビリテーションには急性期、回復期、維持期の3つの段階があります。回復期リハビリテーションとは、発症1カ月を目処とした急性期リハビリテーションの後、疾病管理に留意しつつ能動的に多彩な訓練を中心とするリハビリテーションのことを指します。

当院では、脳血管疾患、大腿骨頸部骨折、外科手術後の廃用症候群などを対象に、従来の訓練室中心のリハビリだけでなく、各病棟に開放的なリハビリスペースを設け、各専門スタッフがチームを組んで情報共有を行い連携のもと1日3時間、365日体制でリハビリを行い、患者さまの家庭・社会復帰を目指し

ています。

現在、8月完成予定で在宅支援センターを増築工事中です。入院中の患者さまを対象とした段差を設けたリハビリハウスや屋外リハビリスペース、退院後のリハビリ支援を目的とした通所リハビリステーションを開設する予定です。

関連病院及び施設として、山口県内では、周南リハビリテーション病院、リハビリテーションセンターなごやか熊毛他6施設があります。また、大阪府及び奈良県にもリハビリテーション病院があります。各施設が連携し合い、皆さまの暮らしをささえていきたいと思ひます。

相談窓口：地域連携室 (0834) 33-7770

『廃棄物法令レポート』

Report

新入社員の方への研修が一通り終了し、徐々に自分に求められる仕事の水準が見え始めてきた頃ではないかと思ひます。

「鉄は熱いうちに打て」という言葉がありますが、今回は新入社員の方のみならず、中特グループ全社員の皆さんに、常に覚えておいていただきたい心構えをお話ししたいと思ひます。

それは、「法律違反の状態を是正するのは、時間の経過とともに困難、かつコストが高額になる」ということです。

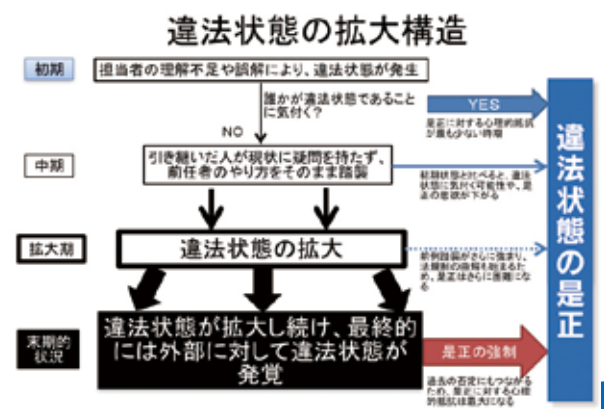
最近、行政機関による不法投棄や、PCB廃棄物の不適正処理があったという報道が増えていますが、これは公務員個人の資質の低下というよりも、今回お話しする「違法状態の拡大構造」に、行政機関が特に陥りやすくなっているためではないかと考えています。

行政機関には、「人の入れ替わりが早い」という特質がありますが、それに「前例踏襲」が組み合わさると、容易に違法状態が拡大してしまひます。

民間企業においても、余裕をたっぷり持った人員配置をできる企業は非常に稀です。で、違法状態がすぐ拡大する構造については、行政機関の状況となら変わりありません。

まず、新しくその業務を担当した人の理解不足や誤解によって違法状態が初めて発生した段階が「初期」。

この段階で間違いに気が付くことができ



ば、容易に違法状態を是正することが可能ですし、是正に対する心理的抵抗もほとんどありません。

初期段階では、それまでのやり方を変えるだけで、違法状態をすぐに是正することができます。

是正を行うのに最も理想的な時期ですが、新しく業務を担当した人の場合、右も左もわからない状態であるため、自発的に違法状態に気付くというのを期待するのは困難です。

そこで、初任者を補うためにも、トップ層やマネージャー層が改めて現場で間違ったことが行われていないかをチェックすると同時に、現場では初任者にも知識をわかりやすく

落とし込むために、マニュアルのアップデートを行いたいところです。

次に、「初期」の間違ひがそのまま次の担当者を引き継がれる「中期」。

この段階でも違法状態を是正することは十分可能ですが、まがりなりにも「初期」の段階から継続して（表向きは）問題なく事態が推移しているため、実は「初期」以上に違法状態に気付くのは困難となります。

新任者が前任者の誤りに気が付く機会があったとしても、「前任者が始めたことだから」とか、「今さらやり方を変えるのは面倒だ」という理由で、前例踏襲の傾向が強まるためです。

この段階での対処方針は、基本的には「初期」と同様ですが、違法状態が「初期」からずっと継続している分、是正の必要性に気付いた段階で早急に行動する必要があるとあります。

ここで是正のチャンスと逃すと、「末期的状況」まで事態は一気に悪化する傾向にあります。

「違法状態の拡大期」を経て、組織外部のステークホルダーに対して違法状態を知られ



行政書士エース環境法務事務所代表
行政書士 尾上雅典先生

中特グループ法務顧問。許認可申請の代行といった単なる行政書士業務に止まらず、廃棄物処理企業の経営基盤確立のため、従業員教育、法務相談など、廃棄物処理企業に特化したサービスを提供されている。

その他、業界誌への寄稿、排出事業者向けのセミナー・講演、廃棄物管理状況の監査など、廃棄物処理企業以外に関係者にも廃棄物の適切な処理を進めていただくべく、精力的に啓発・教育活動も展開中。

てしまうという最悪の状態が「末期的状況」。

ここまで来てしまうと、会社としては、顧客や社会からの批判という相当な痛みを覚悟しなければなりません。

場合によっては、「業許可の取消し」という、会社のみならず従業員全員の生活まで危うくなる事態に陥る可能性まであります。

また、この段階では、（主に行政などから）違法状態の早急な是正が強制されますので、会社としてもすぐに是正をせざるを得ない状況になります。ここで必要なのは、迅速かつ徹底的な是正措置の実行。

是正という変化に対する社内関係者の心理的抵抗は最大になりますが、それにひるまずに打つべき手を打ち続ける必要があります。

ここで不十分な措置しか講じない場合、表向きは是正が完了したように見えても、現場の中に違法行為を再び起こす可能性を残してしまひます。

問題を放置すればするほど、後でそれを解決するのに掛かるコストは高くなっていきますので、問題を見つけた時点ですぐに対処する（あるいは報告する）ことが大切ですね。

東京・埼玉 社員研修旅行

入社してから毎年研修旅行に参加させて頂き、今回四回目の研修旅行だったのだがこの度は私達と同じ産業廃棄物を取り扱う企業様を見学させて頂き、とりわけ充実した研修となった。

埼玉県三芳町にある石坂産業株式会社様。「脱産廃屋」を掲げリサイクルメーカーとして様々な改革を実践されている。雑誌の記事で、ある程度知識を得ていたが、実際に施設見学をして大変驚いた。

集中して行う作業中にも関わらず、作業員の方々は必ず一礼して挨拶。それが全社員に徹底されていることは素晴らしいと感じた。また環境や地域貢献への取り組みで日本初電動型重機の導入など省エネを意識され整備された施設、広大な森の管理、環境を学べる施設の建設・運営など、このような企業様もあるのかと驚き感心した二時間だった。

今まで自分の知らなかった世界を知ることができ、私達も少しでも近づけるようにレベルアップしたいと感じた。

(株)中特ホールディングス

総務部総務グループ 相本 百合子



6月13・14日に参加した研修旅行では、「私たちの合言葉」のうち、「外を見よう」という言葉がぴったりと合う行程でした。

初日に訪問した石坂産業様。御同業でありながら一歩も二歩も何十歩も先を進んでいる印象を受けました。進んだ作業環境の他にも、何十か所の森を管理されているとのこと。また、その森では遊歩道を自社製品で誰にでも歩きやすい環境を作り、地域貢献をされていました。見習うべき点が多々あった視察でした。

視察の他にも、屋形船での宴会、スカイツリーでの不思議写真撮影などで、これまで話をした事のなかった人たちとも部署を超えた交流ができました。また、韓国の方に写真撮影をお願いされたり、これも山口にいたままでは、なかなか遭遇できないことでした。

自分では行く事のなかったかもしれない場所での経験や交流。毎年の研修旅行での楽しみとなっています。来年も必ず参加しようと思います。

(株)藤井興業

アメニティチームリーダー 村田 耕平



この人に聞く！

中特グループを長く支えてくださっているベテラン社員さんを紹介するコーナー「この人に聞く！」の第3弾です。



花本 隆さん

今回は(株)吉本興業リサイクル事業部・花本隆さんにインタビューしました。

Q1. 入社されて何年ですか？

21年経ちました。気が付いたら21年・・・という感じです。



Q2. 入社したきっかけは？

友人が吉本興業で働いていて、たまたま求職中で声をかけてもらって当日の夕方に当時の社長宅へ訪問した所、「明日からぜひ来てね」と言っていたので、そのままお世話になる形になりました。懐かしいなあ...

Q3. 昔と今では...

入社当時は、個々でその日の業務の計画を立てて、回収に廻るスタイルでしたが、現在は個々の業務だけではなく、組織の中の一員として幅広い視野で仕事をするようになってきましたね。

Q4. 今までで一番印象に残った作業は？

入社してからは主に一般廃棄物の委託業務で回収作業をしてましたが、某現場で80～150kgの産業廃棄物を自分で積み込みし、遠方の現場から下松工場まで何往復も運搬した時は、本当にしんどい作業でした。こんな作業もあるのかと、その時初めて知りました。



Q5. 21年という長い年月頑張れる秘訣は？

若くして子供を授かり、親として子供を育てていかないといけないという責任感から毎日必死で仕事をしてきました。長く真面目に勤めれば成果も上がるし、会社からも認めていただけるんじゃないかなあと思って今までやってきた感じかな。本当に皆さんに良くしてもらったお陰で今があります。感謝しています。

Q6. 時間があったら何がしたいですか？

結構多趣味で、物を作る事以外は何でもやってみたいです。1年前位からゴルフを初めて3ヵ月に1回ペースでコースに出ています。〔腕前は？〕との問いに、花本社員は笑って「目標は100を切る事」と目を輝かせていました。〕

他にも、魚釣りが好きで休日は早朝から女房を連れて、県内のいろいろな所まで足を運んでいます。一度、大きなアタリが来たけど逃げられてしまい、それ以来何度かリベンジしたけど、未だ釣れず...また挑戦します！

さらにもう一つ、うちには猫がいるんですが(かなり大きくて8キロあるそうです)猫を連れてちょくちょく旅をしてきました。以前、会社の研修旅行で訪れた鹿児島県の知覧特攻平和会館にもう一度行きたいので猫も泊まれる宿を探してゆっくり旅をしたいなあ



Q6. 最後に一言

重機やトラックを扱う危険な職場なので、新入社員だろうが、ベテラン社員だろうが関係なく決められた事を必ず守る事で重大事故が防げるはず。それと、言われた事をそのままやるのではなく、自分から進んでやる気持ちを持てば改善提案などにも繋げていけると僕は思います。毎日何事もなく平平凡々と過ごす事が一番幸せだと思うから、これからもよく笑ってよく喋って過ごせる事を願います。

(インタビュー：(株)中特ホールディングス 総務部総務グループ 齋本・坂本)

新入社員紹介



今年の4月に入社した藤田晃大です。優しい先輩方に囲まれて毎日新しいことに挑戦させていただいております。1日でも早く中特グループの一員として、地域の皆さんに認めてもらえるよう頑張ります。

(株)中特ホールディングス
CS営業部CS営業グループ
藤田 晃大



4月より入社した野村香菜と申します。宇部市出身で、この度周南市の方へ参りました。総務部に配属され、毎日勉強の日々です。少しずつですが、会社にも業務にも慣れてきて充実した日々を過ごしています。まだまだ失敗が多く皆様に迷惑をかけておりますが、今後どんどんと成長し続けていくので宜しくお願い致します。早く一人前になれるよう頑張ります。

(株)中特ホールディングス
総務部総務グループ 野村 香菜

活動報告

Topic

『やまぐち総合ビジネスメッセ2013』に出展しました

10月25日(金)・26日(土)にキリンビバレッジ周南総合スポーツセンターで開催された『やまぐち総合ビジネスメッセ』に出展しました。



『やまぐち総合ビジネスメッセ2013』とは県内約200の企業や団体がブースを設けて開発製品やサービス・技術を展示する県内最大規模の展示会です。

このたびは下松リサイクル工場で行っている汚泥のリサイクルプロセスのご紹介や、ダチョウ飼育による食品リサイクル

ルについての取り組み、また遺品整理や不用品処分などの対応窓口である『ポータルハートデスク』のPRをさせていただきました。



多くの方が当社のブースに立ち寄って下さいました。

今年もパンフレットを入れてお渡ししたエコバックが大好評！会場でも多くの方が持ち歩かれていました。



第25回「周南掃除に学ぶ会」に参加しました

10月26日(土)に周南市立徳山小学校で開催された第25回「周南掃除に学ぶ会」に中特グループからは9名参加させていただきました。

素手でトイレを磨くことにはじめは抵抗がありましたが、ひたすら擦るうちに汚れを落とすことに集中して時間があつという間に過ぎていました。

トイレをピカピカに掃除することができ清々しい気持ちになりました。



徳山小学校にて環境出前授業をしました

11月7日(木)に周南市立徳山小学校にて、(株)吉本興業が「環境出前授業」をさせていただきました。

4年生のみなさんにご参加いただき



きました。

まずは「3R」(リデュース・リユース・リサイクル)について。ごみを出さない努力をすること・繰り返し使うこと・資源化して再利用することの大切さを一緒に勉強しました。



その後、ごみの分別ゲームをしたり、リサイクルのしくみや流れについて勉強したり、パッカー車にダンボールを積み込む作業を体験しました。初めての体験にみんな興奮！



私達にとっても初めての出前授業でしたが、小学生のみなさんと楽しいひとときを過ごすことができました。

吉本興業の壁のイラストをリニューアルしました

(株)吉本興業の壁のイラストをリニューアルしました。今年も小学生の皆様から環境に関するイラストを応募いただき、中特グループ社員全員で掲示する作品の投票を行いました。

たくさんのご応募ありがとうございました。通りかかった際にはぜひ見てみて下さい。



「第4回 こどもっちゃ！商店街」に参加しました

11月23日(土)に周南市徳山商店街(銀座通り中心)で開催された「第4回こどもっちゃ！」

「こどもっちゃ！商店街」とは、団



体・企業の方と働く体験を通して、小学生の皆様は働く喜びを感じていただき、将来の夢を描いていただくことを目的としたイベントです。

(株)吉本興業ではごみステーションでの



ごみ分別の仕事を体験していただきました。

お仕事が終わると自分の名前と顔写真の入った「分別マイスター認定証」をプレゼントしました。はじめは悩みながらの分別でしたが、慣れてくると分別が早い早い！手持ちのごみがなくなると「ごみはありますか！」とお客様へ声を掛けたりと、積極的にお仕事に取り組みれていました。



交通安全講習会を開催しました

11月26・28日に株式会社ライフデザイン様をお招きして、中特グループ全社で交通安全講習会を開催しました。

今回の講習会では、事前に中特グループの車両に車載カメラを取り付けて録画した実際の映像を見ながら、安全な運転方法について分かりやすく教えていただきました。

社員ひとりひとりが安全運転を意識

し、事故ゼロを目指します！



CSR 報告書を発行しました

このたび中特グループでは初となるCSR 報告書を発行しました。

この報告書は私たち中特グループが社会・環境活動の報告を通してステークホルダーの皆様と対話を図る目的で発行したものです。ぜひご覧下さい。



徳山港 港町埠頭清掃に参加しました

3月8日（土）に行われた徳山港 港町埠頭清掃に中特グループ社員も参加しました。



大量に捨てられた弁当がらや空き缶を分別しながら拾い、繁茂していた草も撤去しました。清掃前と清掃後では見違えるほどきれいになりました。

中特グループ親睦会によるお花見を開催しました

4月5日（土）に社内駐車場にて中特グループ親睦会によるお花見を開催しました。

中特グループ5社合同で行い、社員間の親睦を深めることができました。



2014年中特グループ ISO 内部監査

平成26年4月16日～4月18日の3日間で中特グループISO 内部監査が行われました。

環境マネジメントシステムが有効に機能しているか等をグループ内で確認し、提案・指摘を行いました。



(株)藤井興業が「周南市もやいネット支援事業者協定」に調印をしました

4月22日（火）、(株)藤井興業が「高齢者等見守り活動に関する周南市もやいネット支援事業者協定」の締結をすることなり、調印式に出席しました。

社内法務研修会を行いました

5月16日（金）に中特グループ法務顧問行政書士エース環境法務事務所代表尾上雅典様をお招きして法務研修会を開催いたしました。

今回は午前中に新入社員向けの廃棄物



当社は業務を通して、市街地のみならず中間山地にお住まいのお客様にもお世話になっております。定期的にお客様とお顔を合わせ、ふれあうことができる立場としてご高齢者の方々の支えになればと考えております。

「周南市もやいネット支援事業者協定」とはご高齢の方が地域社会の中で孤立化することで、介護・福祉面はもとより防犯・防災上も危険な状況にさらされることを防ぐため、生活に密着した事業者が行政と連携し安全・安心して暮らせるようご高齢の方の見守り活動を行うことを目的とした協定です。

日代表団の方が下松リサイクル工場の見学に来社されました。汚泥脱塩施設・改質施設、汚水処理施設等をご見学いただきました。



徳山駅新幹線口に中特グループの広告が登場

4月1日（月）より徳山駅新幹線口に中特グループの広告が登場しました！

エスカレーターを下る際必ず見える位置にあります。徳山駅をご利用の際はぜひ注目して見てみてください。



処理法の基礎研修、午後からは営業・リーダー向けの法務研修会を行いました。実際にあった事例などで解説をしていただき、参加者みな興味深く講義を受けました。今後徹底した法令遵守のもと業務を行うため、継続して社員のレベルアップに努めてまいります。

会社説明会を開催しました

2015年春新卒向け中特グループ会社説明会を開催しました。



社員の趣味

私の趣味はバスフィッシングです。

小さな頃から海釣りにはよく行っていました。二十歳の頃当時の会社の先輩に誘われて始めたのがきっかけでした。

当初は何も分からず適当に遠くに投げて巻くだけの偶然に頼った釣りをしていたのでなかなか釣れませんでした。意外と魚は岸際に集まってくる事が多くこれは魚だけでなく生き物は全く何も無い場所よりは何かしら物の近くに寄る習性があるため、そのような習



性を理解したり状況に応じた（水温・風・水の流れ・時間帯など）釣り方をする事で釣れるようになり、理屈に基づいて考えれば釣れるというのが自分には非常に面白くて20年近く続いている趣味となっています。

ロッド・リールやルアーを集めるのも面白く、ルアーは、え？こんな物で釣れるの？という物からリアルさを追求した物まで色々あり収集する楽しみは尽きません。

車に道具さえ積んでおけば仕事帰りにも（一）気軽に行けてしまう、そんな手軽さも魅力的なバスフィッシングですが、外来魚で生態系を乱す事が問題となっています。ルールとマナーを守ってこれからも楽しめればと思います。

（株）ライフ 再資源化グループ

嘉代 泰啓



3R3R3R...

皆さんタバコは吸われますか？日本たばこ協会の調査では2013年の国内消費量は1927億本との報告がありました。これらは吸い終われば全てゴミとなります。

私たちが地域清掃を始めて10年以上がたちますが、路上に捨てられている吸い殻の多さには毎回驚かされます。ここ数年はかなり減っては来ているもののゼロにはならないのが現状です。これは日本だけに限らず世界的にも同様で、米国の環境保護団体が世界68か国で行った海岸清掃では全体の4分の1の最多量を吸い殻が占めていたとの発表がありました。

そういった背景もあり、サンタフェナチュラルタバコジャパンは、米国のリサイクル会社テラサイクルと共同プログラムで『吸い殻ブリケード』と言うタバコのリサイクルを始めました。フィルターは再生プラスチックに、紙や葉は肥料となりリサイクルされます。約5万本の吸い殻から工業用のパレット1枚（1kg程度）の製造が可能になります。テラサイクルのサイトで登録すれば、誰でも参加が可能。家庭などで集めた吸い殻を送れば良いだけです。吸い殻については銘柄は問わず、汚れや湿りがあってもOKとの事。詳細については下記のHPにてご確認を。

愛煙家は肩身の狭い今日ですが、この取り組みに参加して「吸ったタバコはリサイクルしてます！」と胸を張って大きな声で言うのも良いかも知れません。

テラサイクルHP <http://www.terracycle.co.jp>

（株）吉本興業 代表取締役 吉本妙子

編集後記

田植えが終わった田んぼが鏡のようになって、映し出す空や山が美しいシーンです。梅雨入り直後、早苗が伸びるまでのわずかなこの期間もまた、一年の中でもとりわけ清々しさを感じることができ、個人的にはいちばん好きな季節です。そんな中、先日5月31日（土）エコフェスin中特グループを初開催しました。当日は盛夏を思わせるような快晴で、130名近くのお客様にご来場いただき、目標の100名を見事達成！はじめの一步は大変なことですが、このイベントを一から作り上げることで社員一人一人が得たものも多かったのではないのでしょうか？何より、喜びの声も嬉しかったですね。これからも中特グループの「わ」を広げていきましょう！（久保）

